



2021年10月29日

各位

会社名 日本金属株式会社  
 代表者名 取締役社長 下川 康志  
 (コード: 5491 東証第一部)  
 問合せ先 常務執行役員財務部長 丸山 尚之  
 (TEL 03-5765-8105)

## 2022年3月期第2四半期(累計)業績予想と実績との差異及び 通期業績予想の修正に関するお知らせ

2021年5月12日に「2021年3月期決算短信〔日本基準〕(連結)」にて公表いたしました2022年3月期第2四半期累計期間(2021年4月1日～2021年9月30日)の業績予想と本日公表の実績に差異が生じたので、下記のとおりお知らせいたします。

また、2022年3月期通期(2021年4月1日～2022年3月31日)の業績予想を下記のとおり修正いたしましたので、併せてお知らせいたします。

### 記

#### 1. 2022年3月期第2四半期(累計)業績予想と実績との差異

##### (1) 2022年3月期第2四半期(累計)連結業績予想と実績との差異(2021年4月1日～2021年9月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	22,500	△200	△300	△400	△59.75
今回実績(B)	23,798	464	414	107	15.99
増減額(B-A)	1,298	664	714	507	
増減率(%)	5.7	—	—	—	
(ご参考) 前期第2四半期実績 (2021年3月期第2四半期)	18,006	△1,679	△1,700	501	74.88

##### (2) 2022年3月期第2四半期(累計)個別業績予想と実績との差異(2021年4月1日～2021年9月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	18,500	△500	△600	△700	△104.56
今回実績(B)	18,931	△57	△59	△205	△30.65
増減額(B-A)	431	442	540	494	
増減率(%)	2.3	—	—	—	
(ご参考) 前期第2四半期実績 (2021年3月期第2四半期)	14,666	△1,949	△1,915	345	51.56

## 2. 2022年3月期通期業績予想の修正

### (1) 2022年3月期 通期連結業績予想の修正 (2021年4月1日～2022年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	46,000	△150	△250	△500	△74.69
今回修正予想(B)	48,500	500	500	200	29.88
増減額(B-A)	2,500	650	750	700	
増減率(%)	5.4	—	—	—	
(ご参考)前期実績 (2021年3月期)	40,106	△2,386	△2,454	△277	△41.41

### (2) 2022年3月期 通期個別業績予想の修正 (2021年4月1日～2022年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	38,000	△750	△800	△900	△134.44
今回修正予想(B)	39,000	△400	△400	△300	△44.81
増減額(B-A)	1,000	350	400	600	
増減率(%)	2.6	—	—	—	
(ご参考)前期実績 (2021年3月期)	32,415	△2,970	△2,969	△631	△94.27

#### (修正の理由)

当第2四半期累計期間につきましては、売上高は、新型コロナウイルス感染症の再拡大はあったものの、自動車関連産業を中心に受注が早期に回復し、また、原料価格の上昇に連動した販売価格の値上がりなどもあり、当初の予想よりも増収となりました。

損益面では、各工場での生産数量回復による生産効率改善のほか、利益率の高い加工品セグメントの回復が早かったことで製品構成も好転し、当初予想していた損失額を大幅に縮小することが出来ました。

通期の業績予想につきましては、売上高は、第3四半期以降には自動車産業が半導体その他の部品調達不足による減産などで受注に一定の調整がかかると予想されますが、販売価格の上昇もあり、当第2四半期累計期間と同程度の増収を見込んでおります。

一方、損益面では、原材料価格の上昇のほかに、エネルギーコストの高騰や物流、副資材等のコストも上昇傾向にあり、今後の業績を下振れさせることが見込まれます。

加えて、当社板橋工場第三圧延工場の火災事故復旧作業につきましては、圧延機その他の生産設備を2021年12月末までに設置完了する計画としておりましたが、設置場所の一部に地盤強化工事を施す必要が生じ、若干の遅れがでております。(当第4四半期会計期間内で設置完了・量産稼働の体制を整え、早期に従来の生産体制に戻すことによって、冷間圧延ステンレス鋼帯事業の業績悪化要因となっている「代替工程による生産に係るコスト増」は解消に向かう見通しです。)

これらの状況を踏まえて、通期業績の予想を修正いたします。

なお、2021年2月に発生しました当社板橋第一圧延工場での圧延機火災事故に対する火災保険料の算定がほぼ確定しましたので、通期の個別業績予想に特別利益として受取保険料約2億円を織込んでおります。

(注) 上記の予想数値につきましては、本資料作成日現在で入手可能な情報に基づいて作成したものであり、実際の業績は今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

以上